

令和4年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(大館市)

1 市の概要(人口 67,050 人)

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和4年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1 園	0 園	8 園	10 か所	0 園	0 園	17 校

その他:へき地保育所7 地域型保育2 事業所内4 認可外1

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。</p> <p>(2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。</p> <p>(3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)
<p>将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。</p>
主な内容(3年間)
<p>(1) 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター機能の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会を共同開催</li> </ul> <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置</li> <li>・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制</li> </ul> <p>(3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主任、ミドルリーダーの研究推進</li> </ul> <p>(4) 基幹保育園の公開保育による研究成果の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進</li> <li>・基幹保育園以外の園、近隣市町村への研究成果の発信、研修機会の提供</li> </ul> <p>(5) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市主催による合同研修会、相互の研究会への参加の促進</li> </ul> <p>(6) 接続期カリキュラム作成に向けた調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小の架け橋プログラム研究事業によるカリキュラム共同研究・開発</li> <li>・幼保小合同授業・保育参観、及び研究協議への参加</li> </ul> <p>(7) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化、市町村とのネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加</li> <li>・最新情報を得ながら、県からの助言をもとにした体制や研究内容の見直し</li> </ul>
年度別重点
<p>令和4年度 架け橋充実期のカリキュラム(素案)に向けて、0歳から5歳児までの保育・教育の成果と課題を整理する。</p>

	就学前施設・小学校の教職員相互の研究会や合同研修会への参加を促進する。
令和5年度	<p>幼保小の架け橋期のカリキュラムをもとにした各園・各校の保育・教育の実践、検証により、保育・教育の改善を図る。</p> <p>就学前施設・小学校の教職員合同研修会の充実（今日的課題へのアプローチ）を図る。</p>
令和6年度	<p>幼保小の架け橋期、並びに架け橋期につながる0歳からの保育・教育の充実を図る。</p> <p>幼保小の架け橋期のカリキュラム（市共通版）の見直しと各園・校のカリキュラムの完成。カリキュラムをもとにした各園・各校の保育・教育の実践、検証により、保育・教育の質の向上を図る。</p>

わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業 事業の概要(大館市)

4 令和4年度の具体

目 的
<p>○ふるさとキャリア教育の理念の下、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期＝架け橋期として、それに関わる保育者・教職員が教育・保育の指導や援助等について共通理解を図り、一層連携を推進する。</p>
実施内容及び実施状況
<p>(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実</p> <p>○教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター的機能の強化</p> <p>① 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども課の保育アドバイザー、教育研究所教育・保育アドバイザーの定期的な打ち合わせの実施、訪問、連携事業の推進</li> <li>・各園の要望に応じた訪問、研修への支援</li> <li>・基幹保育園園長会、所長会への参加、情報提供、助言(月1回)</li> <li>・基幹保育園主任会との連携による研究推進への助言(月1回)</li> <li>・小学校授業研究会への参加</li> </ul> <p>② 共同開催事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から就学前から中学校までの「個別の教育支援計画」の様式の統一、データ化を図り、支援に係る情報を確実にデータで引き継ぐ取り組みを開始した。</li> <li>・幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」(9～3月)～入学前の集団での生活や学習に不安をかかえている年長児を対象に、少人数集団で通級指導を実施。指導スタッフとして、子ども課と教育委員会が支援に当たっている。</li> <li>・満5歳すてっぷ相談(年間12回)～就学を見通し集団への不適応、人との関わりが苦手な子どもの早期発見、就学に向けた「生活習慣づくり」の保護者講話・相談を実施。子育て講話「小学校に入るまでにできてほしいこと」を教育委員会が担当。</li> <li>・子ども課と小学校との連携による就学時健診の実施。子どもについての事前情報の共有、その後の保護者面談を連携して実施している。保護者に対しては、県が作成したリーフレットを活用して、架け橋期の保育・教育、子育てへの理解につなげている。</li> </ul> <p>○「育ちの教室ぐんぐん」、「満5歳すてっぷ相談」、就学時健診、諸検査、各種相談歴を連動させ、就学情報支援ファイルを作成することにより、早期支援のための在籍園・小学校への情報提供、関係機関との情報共有、保護者への継続的なサポートを可能にしている。</p> <p>○教育委員会主催の研修会への保育士等の参加や発表者が増えており、幼保小の育ちや学びについての共有が図られている。</p> <p>③ 研修会の実施 〈市主催研修会〉</p>

- ・ 4歳児担任研修会 (4/28)
- ・ 幼保小連携推進会議 (5/16)
- ・ 幼保小担任研修会 (5/31)
- ・ 年齢別研修会 (6回)
  - 0歳児 (5/19) オンライン1歳児 (5/23) オンライン2歳児 (5/30)
  - オンライン3歳児 (5/24) 4歳児 (5/25) 5歳児 (5/26)
- ・ 発達支援セミナーⅠ (6/21)
- ・ ファシリテーター研修会Ⅰ (7/1)
- ・ 実技研修会 (8/23)
- ・ 発達支援セミナーⅡ (8/29)
- ・ 5歳児研修会 (11/18)
- ・ ファシリテーター研修会Ⅱ (12/8)
- ・ 教職員研究実践発表会 (1/6)
- ・ 子どもの虐待防止研修会 (1/18)

○昨年度の反省をもとに研修内容を検討した。年度始めの年齢別研修会を2年ぶりに実施した。これからの保育に役立てようと受講者が多く、保育の質の向上につながっている。  
 ○実技を伴う研修では、演習の時間を長くしたので参加者の理解度や習熟度が増し、そのことが自信となり、自園で生かそうとする意欲も出てきた。

(2) 「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導

- ・ 私立の認定こども園への協力要請

◇令和4年度アドバイザーによる巡回訪問・指導 (大館市)

⑥派遣 計50施設/全50施設 222回	
回数	・ 幼稚園：私立1園 (6回) ・ 保育園：公立9園 (64回)、私立1園 (8回)
施設数	・ 幼保連携型認定こども園：私立8園 (52回) ・ その他の施設：(へき地保育所7園 (20回) 児童館0か所 (0回)、小規模保育施設2か所 (13回)、認可外保育施設1か所 (6回)、事業所内保育施設4か所 (28回)) ・ 小学校：17校 (25回)
訪問内容	・ 園内研修支援 (保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画) (目標のうち、18園 (32回)) ・ 公開保育支援 (指導・助言、公開保育研究会の運営・準備) (目標のうち、7園 (15回)) ・ 個別相談 (保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等) (目標のうち、6園 (13回)) ・ 状況把握 (保育の状況観察、園長等への聞き取り調査) (目標のうち、10園 (10回)) ・ 周知活動 (広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明) (目標のうち、33園 (108回)) ・ 県と同行 (指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化) (目標のうち、19園 (19回)) ・ 幼小接続 (幼小接続に関する調査及び事業等) (目標のうち、17校 (25回))
理由	基幹保育園である公立保育園への年間を通じた継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、継続的に幼保小連携便りを配布しながら研修や訪問のメリットを具体的に周知するための訪問を増やしていく。子ども理解と接続等における教職員との相互理解のために幼保小との連携を図る。

- 子どもの育ち・読み取りの共有方法、研究協議の進め方等への継続的な助言により、研究に深まりが見られる。
- 周知活動として公立以外の施設へ訪問できたので、定期的に情報交換ができるようになってきた。
- 施設により、研究への取り組み方や協議の進め方に差がある。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

- ① 市主催研修会の開催

◇4歳児担任研修会（4/28） 4歳児担任等対象 28名参加

内容 「満5歳すてっぷ相談」における保護者への講話について。

講師 大館市教育研究所 副主幹 山本多鶴子氏

○今回の内容を保護者との面談等に生かしたい、子どもの良さや成長を保護者と共有していきたい等の感想が多く、保護者との向き合い方を学ぶ機会となった。

◇年齢別研修会(5/19～5/30) 担任等対象 173名参加

内容 年齢別の発達、発達の繋がりについて

講師 花岡小学校 校長 浅野直子氏（0～2歳児）オンライン

城西小学校 校長 花田一雅氏（3～5歳児）

○発達の繋がりを理解した上での各年齢で大切にしたいことを学ぶことができた。

○事例を基に考えたり話し合ったりしながら、「子どもの心に寄り添い共感する大切さ」について気付かされる研修であった。

◇発達支援セミナー I (6/21) サポーター・加配担当者対象 42名参加

内容 「発達障害の子に関わるために大切なこと」

講師 大館市福祉部子ども課巡回支援専門員 佐藤たけこ氏 畠山佳子氏

○参加者の悩みや聞きたいことの事前アンケートをもとにグループで情報共有したことで、手立てのヒントが見つかった。また、同じ悩みを皆で共有したことで気持ちが楽になったという参加者が多かった。

◇グループの話し合いの時間を長くしたかったため、講話を短くしてもらったが、もっと話を聞きたかったという参加者もいたので、開催回数、内容の検討を次年度行う。

◇ファシリテーター研修会 I (7/1) 及びたしろ保育園ミニ公開保育兼ねる

R3 ファシリテーター研修会 I を受講した職員対象 21名参加

内容 公開保育参観後、SOAP 視点に基づく KJ 法の演習

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 武石郁子氏

<アンケートより>

・参観後の協議は、写真やビデオを見て子どもの姿を見取るよりも、話題となった場面の前後の様子まで全員で共有出来たので話し合いがしやすかった。

・協議の方向に迷いが出たときには、視点やねらいに立ち返って考える、意見が出にくいときや深めたい部分では、隣同士で話し合ってみてから意見を出すなどの、他の園の工夫を知ることができた。

○実際に参観した後の協議は、子どもの姿や場面を共有して話し合うことができたことと好評だった。

○ミニ公開保育と北教育事務所の実施市支援訪問の研修会の取り組みは、今年度初めて行ったが、実際に参観した後の協議は、子どもの姿や保育者の援助等について場面共有しているので、内容が深まった。

◇実技研修会（8/23）

新規採用者から5年経験した保育士、保育教諭、保育補助者対象  
20名参加

内容 絵本・手遊び・ふれあい遊びの紹介（演習・情報交換）

講師 大館市公立保育園 主任保育士

<アンケートより>

- ・自分の園でやっている手遊びや歌でも、他の園ではアレンジを加えて、いろいろなバージョンがあることを知った。季節に合ったアレンジや子どもの興味を引くアレンジをして、実践してみたいと思った。
  - ・絵本の内容を遊びに繋げていくというお話があり、子どもたちの好きな絵本を選び、遊びに繋がる方法を考えてみたい。
- 昨年度も好評であり引き続き開催した。若年層を対象としたが、学んだことを自分なりに保育に取り入れていこうとする感想が多かった。
- △運動や外遊びの研修を要望する感想もあり、次年度の参考にしたい。



手遊びの演習

◇発達支援セミナーⅡ (8/29) 幼稚園教諭・保育教諭・保育士対象 39名参加

内容 個別の教育支援計画作成について（講義・演習）

講師：秋田県立比内支援学校 教育専門監 藤田久美子氏

<アンケートより>

- ・実際に作成した支援シートを活用しながら研修に参加することで、照らし合わせながら講義を聴くことができ、とても分かりやすかった。
  - ・演習では、小グループで1つ1つ書き方を確認できたので、理解が深まった。
- 園で悩みながら迷いながら作成していた先生方が多く、あらためて勉強して理解を深める場となった。事前にアンケートを収集していたので、ポイントがはっきりした。
- △来年度は、記入したものを持ち寄り、情報共有の場を設けたい。

◇5歳児研修会(11/18) 年長児担当対象 33名参加

内容 保育要録の記入について

講師 北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 岡部賢哉氏

<アンケートより>

- ・事例を用いた演習は分かりやすく、リフレーミングや文例を活用した文章構成を園内研修に取り入れたい。
  - ・要録の根底には、保育計画や日々の記録の大切さ、子どもの姿から育ちを見取る力等、どの保育者にも求められているものがあると感じた。
- 演習が個人→グループ→代表者発表の形で進められ、個人で考える時間もグループで話し合う時間も十分保障されたので、自分の考えを深めたり他者の考えを理解したりしながら学ぶことができた

◇ファシリテーター研修会Ⅱ(12/8) 園内研究をリードする中堅職員対象 22名参加

内容 研究協議の実践

講師 北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 岡部賢哉氏

<アンケートより>

- ・この研修でファシリテーターの役割・協議の進行の仕方をより深く学ぶことができました。先生方から出してもらった意見を受け止め共感することで意見を出しやすい雰囲気づくりをすることや、そこから絞ったり引き出したりする力を身に付けられたらと思います。園内研修を通して、お互い支え合い、高め合えるような関係性が生まれるとよいと思います。
  - ・ファシリテーターの役割を全員が知り、順番にやってみることで、会議・研究・研修の進め方・進み方が変わるのではないかと思います。
- 参加者は園内で SOAP 型の協議を実践しており、その実践の中で抱いていた迷いや不明な点を参加者同士で確認したり指導主事の先生方に直接聞いたりすることができ、自園での協

議の進め方の参考になった。

◇子どもの虐待研修会(1/18) 園長・主任・保育士等対象 37名参加

内容 子どもの虐待対応について（講義・演習）

講師 大館市子ども課児童相談係 社会福祉主任 松田さとみ氏

<アンケート回収中>

② 基幹保育園ミニ公開保育の開催

大館市就学前教育・保育施設職員を対象に公立保育園9園の保育を公開することにより、自園の保育の質の向上につなげることをねらいとして実施した。事前に各園の研究テーマとサブテーマを情報提供し、参加者も自園の研究に活かせるようにした。

◇たしろ保育園(7/1) 北教育事務所指導主事、小学校長、関係者評価委員、  
就学前教育・保育職員 23名参加

<アンケートより>

- ・指定クラス以外も参観させて頂き、年齢を考えた環境構成が参考になった。
- ・広い園庭で、のびのびと思いきり遊ぶ子どもたちの姿が印象的だった。

◇城南保育園(7/12) 小学校長、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 23名参加

<アンケートより>

- ・限られた空間の中で、やってみたいことをのびのびとできる環境作りがされていた。様々な素材から子どもたちがさらに新しいものを作ろうとする姿も見られた。保育室の手作りのおもちゃに温かさを感じることができた。
- ・園庭のプールや水遊び、泥遊びを保育者も一緒に全力で楽しむ姿がとても素敵で、見ている私もとても楽しくなりました。

◇十二所保育園(8/30)

小学校職員、関係者評価委員、就学前教育・保育職員  
24名参加

<アンケートより>

- ・「誰か手伝って」と自分から発信したり、重くて砂を運べずにいるお友達にそっと手をかす子どもがいたり…。伝え合う力、気付く力、協力し合う力が育っていると思いました。
- ・保育士等の中で声を掛け合いながら連携して子どもたちを見守っていました。当たり前のことですが、大切なことだと改めて思いました。



どろんこ遊び

◇東館保育園(9/13) 小学校校長、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 25名参加

<アンケートより>

- ・困ったことや問題が発生した時、保育者が解決するのではなく、「どうしたらいい？」と聞いて、子どもに考えさせようとしていたり話し合わせようとしていたのが、よかったです。
- ・保育者が、子どもの思い・言葉を優しく受け入れているところ、楽しさ・驚きに共感していて、ステキな関わりだなと思いました。

◇有浦保育園(10/26) 小学校校長、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 22名参加

<アンケートより>

- ・ビニールのかくれんぼスペースは、静かにできそうな場所だったり光を楽しめる場所だった

り、遊びの幅が広がりそうだと感じました。環境作りの参考になりました。

- ・保育者が受け止めてくれる安心感をもちながら、やりたいことがじっくりできていました。遊びの保障もしっかりできていると感じました。

◇大館乳児保育園(10/27) 就学前教育・保育職員 18名参加

<アンケートより>

- ・子どものしたいことに合わせた保育や環境になっていて、一人一人の子どもが安心した表情でゆったりと過ごしていると感じました。
- ・陽射しの中で本を読もうとして、子どもが絵本を持って外に出ました。好きな場所で好きな遊びをじっくり楽しめる環境作りをしていると感じました。

◇釈迦内保育園(10/31) 関係者評価委員、児童民生委員、就学前教育・保育職員 17名参加

<アンケートより>

- ・友達同士のトラブルに対して、どの先生も年齢やその子の特性に合わせた援助をしていて、すばらしいと感じました。
- ・友達とやり取りしながら遊ぶ姿がたくさんありました。「今、ぼく使っているから、あっちのを使ったら？」というように、思いを言葉で表せていることもいいなあと感じました。

◇扇田保育園(12/7) 小学校教諭、保護者代表、就学前教育・保育職員 22名参加

<アンケートより>

- ・各クラスゆったりじっくり好きな遊びをする空間があつてよかった。他のクラスの子どもも行き来し異年齢交流も見られた。以上児の真似をしてやろうとする1歳児の子どもたち、興味も広がっていました。
- ・友達といろいろな案を出しながら階段を作ったり、子ども主体で遊びを進めたりしていてすばらしいと感じました。

◇西館保育園(12/8) 就学前教育・保育職員 24名参加

<アンケートより>

- ・園全体が伸び伸びとした雰囲気が感じられ、園長先生をはじめ、職員の皆さんの保育を楽しむ思いが伝わりました。
- ・忍者になりきる環境作りや言葉掛けは子どもの遊ぶ意欲を高めていました。忍者ごっこの中に身体を動かす手立てがいろいろ仕掛けられていて、すばらしいと感じました。

◇城南保育園分園(12/20) 就学前教育・保育職員 20名参加

<アンケートより>

- ・子どもの発見したことを聞き逃さず一つ一つ丁寧な関わりがされていたことが、すごく良かったと感じました。
- ・どこのクラスも、子どもがやりたいことにとことん付き合う保育士さんの姿がありました。だからこそどの子も伸び伸び遊んでいたのだと感じました。

○ミニ公開保育を参観することで、自分の保育の方向性を考えたり環境の構成の参考にしたりしようとする前向きな声が多かった。また、公開園も参加者の感想が保育改善の参考になったり、励みになったりした。

○参観者に対して「保育改善に生かしたいので率直なご意見を！」呼びかける園もあり、他の園の先生方のアドバイスを積極的に求める姿勢が見えてきた。

○市主催となっているミニ公開保育は、1園増え10園になり、保育の参考にできる枠が広がった。

③ 基幹保育園（5園）主催の研修会：オーダーメイド研修会

・公立園長会で研修会内容が重ならないように調整し、多様な研修を受講できるようにした。

実施園	実施日	内 容	講 師	参加者
大館感恩講	6/22	保育者の心模様	西館保育園 園長 佐藤和博 氏	13名
扇田保育園	8/10 (コロナ により延期) 2/1 実施予定	折れない心の育て方	緑の牧場教会 牧師 村岡昇 氏	
たしろ保育園	10/25	楽しいお絵かき	ATELIER Ko 成田康 氏	32名
城南保育園	12/1	地球温暖化・SDG s に ついて	あきたエコマイスター 藤原清美氏 藤原久子氏	21名
有浦保育園	12/13	保護者と、どう向き 合うか	大館市立中央公民館 主任・生涯学習コーディネ ーター 一関留美子氏	20名

○保育者の日々の悩みや迷いに合致した研修や実践に結びつく研修が実施できている。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

① 就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

◇小学校の授業参観と協議・保育参観と協議・保育士体験

たくさんの小学校で園の先生方による1年生の授業参観が実施されている。1学期の早い段階で、授業参観と情報交換、交流の打合せをしている。また、PTA授業参観日やみんなの登校日に保育園の先生を招待する学校もある。

保育園では、要請訪問や関係者評価、園行事に小学校の職員を招待している園が多い。また、夏休みを利用して、小学校教諭が保育士体験をする研修や、小学校が保育士等と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした研究協議も増えている。

子ども同士の交流も大変多く、農作業に園児を招いて一緒に活動する交流や、生活・総合の時間に保育園を訪問する交流も計画されている。また、連絡協議会を組織している学区では、園児・児童（・生徒）のめざす子どもの姿や共通実践事項を話し合っている。学区の子どもの育ちを保・小（・中）で、また、地域とも共有しながら取組を決めて実践している。



2日間で6名の小学校教諭が  
保育を体験

多少の雨でも元気に外遊びしていました。虫探しでは、自分で虫を探すだけでなく友達と協力して捕まえたり捕まえた虫を友達にあげたりして、**友達との関わりを深めて**いました。プール遊びの場面では、「見てて！〇秒もぐる！」「〇秒できた！」と**自分なりに目標を決めて達成する喜び**を味わっていました。自分からあまりそのようなことを話さない子どもには、先生が、「〇〇君、前は～だったよね。できるようになってすごい！」とその子の**頑張りを見取って褒めて**くださっていました。一人一人に**ていねいな関わり**ができていることがすばらしいと感じました。  
〈保育士体験の小学校教諭の感想〉

○入学前の早い段階で1年生の授業を参観し話し合うことは、入学後の1年生の適応状況について情報交換したり子どもの育ちを共有したりして今後の支援に生かす上でも大変有効であった。また、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの見直しにもつながった。

○各園の保育の参観に、校長、教頭、1年生の担任だけでなく、全職員が参加するところや、その後の研究会にも参加する小学校が増えてきた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解のために有効な実践である。

△生活科における子ども同士の交流が単なる招待に留まっていたり、T2・T3として参加する保育士との打ち合わせや役割分担が曖昧だったりする場合も見受けられた。

#### ◇幼保小連携だより「つなぐ」の定期発行（月1回）

・大館市の全就学前教育・保育施設（35施設）のほか、小学校、北教育事務所、他市の保育アドバイザー、市教育委員会、子ども課に配布。

・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について、「大館の保育・教育を語る」の連載、就学前教育・保育と小学校の教育の連携のための情報提供、研修・訪問の実施状況、感想等を掲載している。

・保育と教育双方の理解を進めるための特集として交流の実践例、「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』で考える幼保小のつながり」などを特集した。

・幼保小の架け橋プログラムの趣旨・内容の周知・普及の為の情報を提供している。

○園と小学校との交流、小学校職員の保育参観・体験、研究協議への参加、幼保小連携便りの情報提供等により、小学校職員の保育への理解が深まってきている。

△他市の連携だよりを参考にして、興味関心のある記事の掲載や読みやすい紙面の構成を心がけたい

#### ② 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の実施

◇幼保小連携推進会議（5/16） 副園長・主任、教頭・養護教諭対象 43名参加

内容 「効果的な幼保小連携について」の講話 講師 北教育事務所 指導主事 岡部賢哉氏  
「生活習慣の確立について」市学校保健部会 養護教諭の発表  
メディアコントロールについての協議

○メディアに対する早期からの取り組みや家庭への啓発の必要性を実感することができた。メディアコントロール週間に参加したいという就学前施設が多いことも分かり、幼保小連携して取り組んでいきたい。

◇幼保小担任合同研修会（5/31） 年長児・小1担任・養護教諭対象 66名参加

内容 「育ちや学びの連続性をふまえた円滑な接続」について

講師 北教育事務所 指導主事 岡部賢哉氏

○講和後、スタートカリキュラムについての情報交換や連携交流事業の具体について協議し、有意義な会となった。

○養護教諭が初の参加となり、生活習慣の確立について実態や課題を共有しながら、保護者への啓発の手立てを共に考えることができた。

◇大館市教職員夏季研修会（8/3）

就学前全施設職員・小学校教職員対象 46名参加

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識した乳幼児期からのカリキュラム  
～基盤となる考え方としての一考察～」

学校法人柴田学園大学短期大学部 学長 柴田幼稚園 園長  
島内智秋氏

○カリキュラムに対する基本的な考え方と、保育にどう反映させるかなどの具体を豊富な事例を交えて講話いただいた。参加者で認識を統一することができた。

◇大館市教育研究会生活科部会（10/21）山瀬小学校2年生の授業参観・研究協議

就学前全施設職員 18名・小学校教職員 8名、行政関係者 5名 参加

- 小学校の先生方は教材や援助について、子どもたちの思考や活動を想定した上で様々な配慮や工夫がなされており、就学前の先生たちにとって参考になった。
- 小学校2年生の授業を参観する機会は少なく、1年生の育ちの姿とは違った成長、発達を知ることができた。

◇大館市教職員実践発表会（1/6）

就学前全施設職員・小学校教職員対象 102名参加

実践発表

- ・扇田保育園 「自分が大好き 友達も大好き 友達に共感できる子ども」  
～子どもの育ちを理解した遊びの環境づくりと保育者の関わり～
- ・十二所保育園 「思いっきりやってみよう」  
～ファシリテーターの挑戦 全員参加の語り合い～

<アンケートより>

- ・普段の活動の中で、子どもの姿やつぶやきから一人一人を理解し、自分のよさに気付けるような声掛けや支援などが成長につながっているのだなと思いました。「受け入れてもらう」「認めてもらう」ことにより自己肯定感が高まり、自己表現や共感力につながるということを改めて感じ、私も日々子どもと関わる中で、一人一人が満たされる環境づくり・支援・声掛け、大切にしていきたいと思いました。（小学校養護教諭）
- ・園内研究のやりにくさなど意見を拾って、保育士がやりやすいように、また、時間短縮となるように改善していることがとてもよいと感じた。『G-SO♡AP!』と十二所保育園独自の協議方法を見つけ出したことで、子どもだけでなく保育士も認められる経験ができ、自信につながっていると思った。保育士もモチベーションを保ちながら保育している様子が印象的だった。『保育はチーム!』という大切さを改めて感じた。（保育士）
- 公立保育園2園からの実践発表があり、小・中学校の教職員もその分科会に参加し、保育への理解が深まった。
- 幼保小中の連携が大切であることをあらためて意識したという感想が多かった。

◇大館市保育実践発表会（1/27.1/30 実施予定）就学前全施設職員・小学校教職員対象 115名

実践発表

- ・扇田保育園 「自分が大好き 友達も大好き 友達に共感できる子ども」  
～子どもの育ちを理解した遊びの環境づくりと保育者の関わり～
- ・十二所保育園 「思いっきりやってみよう」  
～ファシリテーターの挑戦 全員参加の語り合い～

教育研究所 副主幹 山本多鶴子氏

幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業について

（5）「県との連携体制の充実」

◇県主催協議会・研修会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

- ・園長等運営管理協議会（4/27）・就学前・小学校等地区別合同研修会（5/16.5/31）
- ・教頭・主任等研修会（5/10.11/2）・園内研究リーダー養成講座（6/30.10/12）
- ・教育・保育AD連絡協議会（4/22.6/24.8/25.10/25.1/24）
- アドバイザー研修では、他市の事業内容や進め方、アドバイザーとしての関わり方、保育の見方など学び、本市の事業に生かすことができた。

◇秋田県教育庁幼保推進課との連携体制と役割分担の明確化

- ・ 県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行(18施設)。
- ・ 北教育事務所指導主事等との打合会の開催(年2回)。

〈具体的な連携〉

- ・ 北教育事務所指導主事による市の事業や研修への支援・協力
- ・ 市アドバイザーが依頼文書、研究内容、指導案の見直し後、各園で訂正し、その後、北教育事務所へ送付。それを受けて、北教育事務所から各園に日程・内容の確認。
- ・ 同行訪問では、子どもの姿や保育者の関わり、環境の構成等で気付いたことを指導主事と情報交換し共有。
- ・ 市主催研修会に内容について、打ち合わせや情報共有。

○市主催研修会の内容を県と共有できたので、参加者が同じ内容を何度も聞くことがなくなった。

○県による教育・保育アドバイザー等の研修参加や県教育庁北教育事務所要請訪問同行により、アドバイザーとしてのスキルアップにつながり、園訪問での助言に生かすことができた。

**5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和4年度)の成果と課題**

○市主催の研修会が定着し、多くの参加者がいる。中でも年齢別研修会・実技研修会の内容は、園での実践に直接生かすことができるものなので、保育者の意欲を高めるものとなっている。

○ファシリテーター研修会で研究協議の基本的な進め方を学んだ先生達が増えたことにより、園での協議が充実してきている。協議を重ねることで、子どもの育ちの見取りを確かなものとし、保育の質の向上にも繋がっている。

○保育士が小学校の研究会に参加し参観・協議を行ったことは、保育・教育双方の理解に有効であった。公開保育研究会や各園の要請訪問には、小学校の教職員はじめ、近隣園からも参加がある。育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点に参観したり協議をしたりすることで、多くの教育関係者が架け橋期の育ちを共有することが増えてきている。

○様々な研修会や園長会、主任会等で市アドバイザーの業務内容やメリットを伝えてきたことにより、園内研究に市アドバイザーの継続的な支援を求める保育施設が多くなり、再訪問した時は、助言したことや話し合われた内容等について改善されていることが増え、その成果を実感している。

●市主催の研修会や公開保育への参加の有無は施設によって違いがあることから、情報共有にも差が出てくる。今後も参加を促すとともに、欠席時には、どのように情報や研修内容を伝えるか検討する。

●へき地保育所は、園児数の減少により集団としての保育の質が保たれていくのか心配なところもある。また、所の運営や研究、若手職員育成の悩み等への助言の機会を増やしていきたい。